

私立 広島修道大学

取組名称 拡大エンrollment・マネジメントによる生涯キャリア形成支援

取組担当者 人間環境学部 教授・キャリアセンター次長 三浦 浩之

1. 本学の概要

広島修道大学は、1725(享保10)年、浅野藩の藩校「講学所」にその起源を持つ。広島修道大学の「修道」は、中国の古典『中庸』の一節に由来している。その意味は、人の道、学問の道を修めることにより、それぞれの個性を育むことにある。この建学の精神に基づき、大学の教育目標は、「地球的視野を持つ人材の養成」、「個性的、自律的な人間の育成」としている。

1960(昭和35)年に、修道短期大学から4年制の広島商科大学が設立され、1973(昭和48)年には、新たに人文学部を増設したことにより、大学名を現在の広島修道大学に改名した。その後、法学部(1976(昭和51)年)、経済科学部(1997(平成9)年)、人間環境学部(2002(平成14)年)を設置、さらに2004(平成16)年には法科大学院を設置した。現在、5学部、5研究科(大学院)を有する文化系総合大学である。在籍学生数は、6,040人(2009(平成21)年5月1日現在)。また、海外の大学との国際交流を積極的に推進し、現在9カ国21大学と交流している。受け入れ留学生数は約150人である。

広島修道大学は、毎年約1,400人の学生を社会に送り出しているが、その就職率は、この3年間では、94.9%(2006(平成18)年)、95.4%(2007(平成19)年)、95.1%(2008(平成20)年)となっている。学生の就職先は、金融業、流通業、製造業、サービス業が80%を占める。さらに就職する地域は、地元を始め、関東、関西、九州と幅広い地域にわたっている。2005(平成17)年には、学生の就職を担当する就職部の名称を「キャリアセンター」と改め、現在は学生の就職指導にとどまらず、1年生からのキャリア形成のための教育にも力を注いでいる。

2. 本取組の概要

在学生だけでなく卒業生までも大学内の各部署が連携し一貫して支援し続けるという、拡大エンrollment

・マネジメントに基づいた生涯キャリア形成支援に取組み、『学士力』、『就業力』を持続的に高めることを目指す。

在学生に対しては、必修としているキャリア教育科目と学士課程教育の相互作用関係構築により、自らの生涯キャリア形成の視点からの大学における学習意欲向上・高い目的意識の保持を促す。

卒業生に対しては、「卒業生サポートセクション」による第二就業相談やメンタルケア、既卒者と企業・団体等とのニーズ・マッチングを行うとともに、新たに構築する既卒者求人情報提供システムと卒業生キャリアサポーター制度による情報提供、就業支援を行う。

これらにより、既卒無業者極少化、就業満足度向上、卒業後3・4年経過者の離職者率半減、第二就業希望者(内定取消者、第二新卒含む)の全員就業を達成目標とする。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的・達成目標

大学は学生の生涯にわたるキャリア形成に責任を持つべきであると考え、在学時から卒業後までもキャリア形成のサポートを行い、彼らの『学士力』、『就業力』を持続的に高める教育を行うものである。

本学学生が本学の提供する教育(学士課程教育)の意味・意義を、自らの生涯にわたるキャリア形成と結びつけて深く認識し、それにより高い学習意欲、目的意識を持ちながら大学生、そして社会人として成長し続けていくことをサポートする取組である。

そこでは、学生・卒業生(内定取消者、第二新卒含む)が知識獲得だけでなく、その活用能力や創造性、課題解決力を培えることを目指す。

本取組の達成目標は、既卒無業者・不本意就業者ゼロと早期離職者の減少、第二就業早期達成を図ることである。

(2) 本年度の達成目標

取組初年度の達成目標は、在学生と卒業生、個々に設定している。

在学生については、学生と教職員との間で、学士課程教育とキャリア形成に関する相互刺激関係を築くことである。学生側からは、キャリア形成支援科目で自らの生涯キャリア形成における学士課程教育の意味・重要性を考え、自らのキャリアプランを教職員に提示する。一方、その提示されたキャリアプランを見た教職員側は、大学において提供する学士課程教育や課外活動等の内容を、提示された事柄を踏まえて検討し改善していく。この様な相互刺激関係を築くことを目標とした。

卒業生については、既卒無業者の減少、第二就業の早期実現を達成するため、卒業生のための求人開拓・就職支援システムの構築、就業相談の窓口設置、資料整備等を行って、生涯にわたるキャリア形成支援の仕組みを構築するが第一の目標である。さらに、大学卒業後3・4年経過した全卒業生への在学時に受けた学士課程教育等の現在のキャリア形成における有用性等に関する評価アンケートを実施し、これを教育内容に反映していくという、生涯キャリア形成支援の視点からの教育に関するPDCAシステムの構築を図ることである。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 在校生のキャリア形成支援での「キャリア形成支援」科目グループワーク成果の発表会を通じたPDCAシステムの構築

(i) 『修道スタンダード』科目としてのキャリア形成支援科目

本学の教育理念は、「地域社会の発展に貢献する人材の育成」、「地球的視野を持つ人材の育成」、「個性的かつ自律的な人材の育成」の3点である。これは、大枠としてのディプロマ・ポリシーであり、これらを基に卒業生が備えるべき能力をより具体的に検証し、それを育成するプロセスとして『修道スタンダード』を2007（平成19）年に策定した。

この『修道スタンダード』では、「カリキュラムの刷新」、「アドバンス教育の充実」と「キャリアサポートの強化」を3つの柱とし、学生が理想の進路を選べるように、入学から卒業まで徹底サポートすることを目指している。

この『修道スタンダード』を具体的に進めるものとして「修道スタンダード科目」（図1）があり、これは、

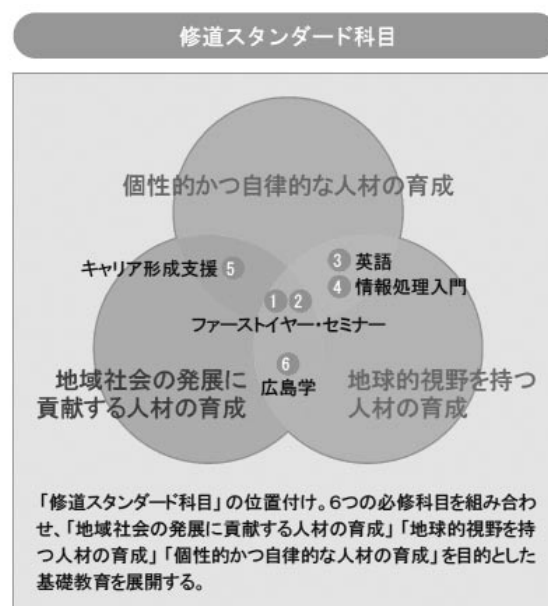


図1 修道スタンダード科目
(Benesse教育開発センター資料に掲載されたもの)

「ファーストイヤー・セミナーⅠ・Ⅱ」「英語」「情報処理入門」「キャリア形成支援」「広島学」の5科目群・6科目で構成されており、全学統一的に履修させている。

「キャリア形成支援」科目は2年生の全学生が履修する科目で、“「社会人基礎力」獲得の視点から大学教育と大学生活を見つめ直すこと”を基本姿勢に、受講生が“一人ひとりが高い目標意識を持ち、人生観や職業観をかんようし、的確な進路設計・職業選択ができる能力を磨くこと”を目指している。

そのため、本科目では学生に「社会人基礎力」の獲得には『大学教育』が大きな役割を果たすことを認識してもらい、これからの大学における“学び”と“体験”を有意義なものとしてもらえるような講義内容とし、次の3ステップ構成としている。

- 第一ステップ：キャリア形成、キャリア教育の意義、重要性の認識
- 第二ステップ：大学での‘学び’の再認識（グループワーク）
- 第三ステップ：自らの今後のキャリア形成の展望・構築

(ii) グループワーク成果発表会

この第二ステップのグループワークでは、『学部学科教育と生涯キャリアとの関連』を学生が考え、その成果を、「私たち（学科）の売りはこれだ！」—私達の学科ではこんなこと（学び）ができる—と題して発表している。全学部を6つのクラスに分けて講義を行っているため、通常はこの発表会もクラス毎に開催しているが、今回、「拡大エンrollment・マネジ

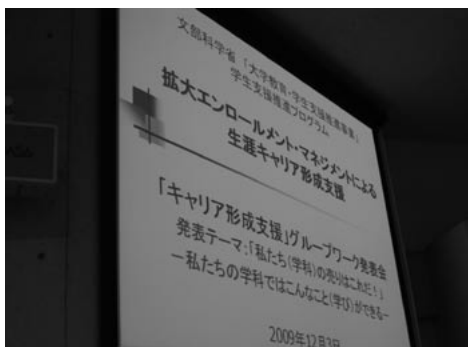


写真1 グループワーク成果発表会

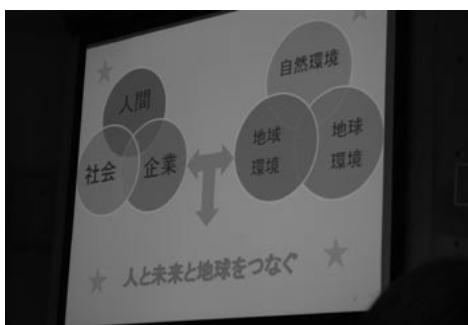


写真2 学生による発表

メントによる生涯キャリア形成支援」の取組の一つとして、全学的な教職員も参加する「キャリア形成支援」グループワーク発表会を開催した(写真1、2)。

各学部学科・専攻の代表グループが本発表会において、それぞれの「売り」が何であるかを考えていくことで、学生が自らのキャリアデザインについて深く思考することになり、自らの生涯キャリア形成の視点から、大学における学習意欲向上や高い目的意識の保持を促すことができていた。また、発表会に参加した教職員は、学生達がそれぞれの学部学科・専攻の教育目標と社会に送り出す人材像をどのように理解・認識しているのかがわかり、現在進めているカリキュラム改正の参考とすることができた。

(iii) 取組の実施体制

在校生に対する本取組については、キャリア形成支援科目担当マネージャー1名(教員、キャリアセンター次長)と科目担当専任教員5名、非常勤講師そしてキャリアセンター内の本科目担当職員2名(兼任)による、「キャリア支援プロジェクトチーム」が実施している。このチームはキャリア形成支援科目担当マネージャーであり、本取組の事業推進責任者である三浦が代表である。また、科目担当専任教員は各学部1名である。

(2) 卒業生への取組

(i) 卒業生向け就職相談窓口設置

まず、求職活動している卒業生の就業支援を行うた

め、キャリアセンター内に卒業生のための就職相談窓口を設置した。これは、就職できないまま卒業し、就職活動を続けている卒業生や、就職して早期に離職し求職中の卒業生を対象に、個別の就職相談等の就業支援を行うものである。

相談窓口は対象卒業生の実態に対応するため、これまで閉室していた土曜日にもキャリアセンターをオープンすることとした([窓口取り扱い時間] 月曜日～金曜日 8:45～16:45 土曜日 8:45～15:00)。今後、卒業生のニーズがさらに高まれば、日曜日や平日夜間の窓口対応にまで拡大することを考えている。この相談窓口には卒業生相談専任キャリアアドバイザーを配置し、卒業生のための就業等相談を行っている。

(ii) 卒業生への本学独自就職情報サイト『ShuNavi』の利用拡大

広島修道大学に寄せられた求人情報をインターネット上で検索できるシステムが『ShuNavi』である。このサイトには本学への求人情報、本学が実施している就職ガイダンス等の情報がすべて掲載されており、検索機能(業種、本社所在地、職種、勤務地、ほか)も備わっている。さらに、面接に不安を持つ学生に対して提供している模擬面接や首都圏等への就職ツアーへの申し込み等や、卒業生情報や体験談等まで閲覧できるものである。

従来、このサイトには在学生のみしかアクセス権がなかったが、求職を望み登録した卒業生にもサイトへのアクセス権を付与できるようにシステムの改良を行った。加えて本学と関係の深い企業約5,000社に既卒者の求人を依頼し、卒業生に紹介できる既卒者向けの求人情報を集約したWebページを新たに構築した。これらにより、Web上からの求人情報の提供や、セミナーの就職ガイダンス案内の提供、模擬面接の申し込み等が可能となった。就職を希望する卒業生は、これまでハローワークにのみ頼っていた情報から、本システムによる新たな情報で、就職活動により広がりをもつことになる。

(iii) 卒業生へのキャリア形成に関するアンケート調査

大学卒業後3・4年経過した全卒業生に対して、大学における学士課程教育や多様なキャリア支援プログラム(企業説明会等)が、現在のキャリアにどのように役立っているかなどについてアンケート調査を実施する。

この卒業生の就業実態アンケート調査により、大学の学部教育やキャリア教育の評価が行え、その結果より改善方向を見出すという、PDCAサイクルを構築で

き、教育改善やキャリア教育の取組や在学生の就職支援の取組の改善に生かすことができる。

(iv) 卒業生キャリアサポーターの紹介

本学には学生の就職活動を支援する「卒業生キャリアサポーター」という制度がある。

業界や職種等のミスマッチを防ぐためには、ホームページ等の情報だけでなく、仕事や企業等の内容、雰囲気、その他のことを直接聞くことが重要になっている。そのためには、企業の実情を知るOB・OG訪問が有効であるが、個人情報保護法施行以来、大学、企業とも卒業生情報の開示が難しくなり、OB・OG訪問が困難な状況である。

このため、後輩への情報提供を承諾した卒業生にキャリアサポーターとなってもらい、企業における働き方等についてのアドバイスを、直接、もらえる体制を構築している。

この制度を卒業生にも適用して、具体的な働き方等についての情報を直接、勤務している先輩から聞くことのできる機会を提供している。

(v) 取組の実施体制

卒業生に対する取組はキャリアセンターが実施している。

本学ではキャリアセンターが学生の就職に関連する情報の収集・提供、各種ガイダンスや職種・業界・企業研究セミナー開催、学内就職セミナー開催、卒業生との情報交換会等、学生の就職に関連するすべての業務を担っている。構成メンバーはすべて職員である。

さらに、『修道スタンダード科目』の「キャリア形成支援」科目の開講に伴って、教員1名がキャリアセンター次長の任に就き、就職支援に留まらない大学におけるキャリア形成全般にまで役割を果たすようになっている。

(3) 本申請の取組の内容、経過、成果等に関する情報の積極的な提供の方法・体制

(i) 情報提供の方法

取組に関する情報については、一般社会に対しては「大学ホームページ」、「大学広報誌TRUTH」、卒業生に対しては「同窓会報アルマ・ガゼット」、企業に対しては「求人案内パンフレット」等、印刷物やWebにより外部に発信する。

また、上述した「キャリア形成支援」科目におけるグループワーク成果の全学的発表会も本取組の成果に関する情報提供である。今後は、本取組を経た学生(3年生)による、自らのキャリア形成と大学教育の

関わりについての報告会を実施する計画である。

(ii) 情報提供の体制

これらの情報発信は、キャリアセンターが中心となり、同窓会事務局、学長室総合企画課が担当する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

本取組ではキャリア教育担当者、キャリアセンター、同窓会に企業の人事採用担当者を加えた評価委員会を設置するとともに、キャリア教育を受けた学生による本学学士課程教育と自らのキャリア形成についての発表会と、卒業生キャリア形成アンケートを活用し、在学生・卒業生両方に対する支援取組の評価体制を構築する。

(2) 取組の評価方法

2008(平成20)年度の既卒無業者の求職者数に対する比率は5.2%である。これを極力0%に近づける。不本意就業者は就業満足度が指標となり、2007(平成19)年度の卒業生アンケートで72%であったのを90%に上昇させる。

卒業後3・4年経過者の離職者率は2007(平成19)年度調査では32%であり、これを半減させる。第二就業については、希望者全員の就業を目指す。

6. 本取組の実施計画等

(1) 初年度の取組

初年度としてこれまで、①キャリア形成支援科目のグループワーク成果の全学発表会の開催、②休日も対応可能な卒業生就職相談窓口の設置と専任キャリアアドバイザーの配置及び卒業生キャリアサポーターの紹介、③在学生用就職ナビシステム『ShuNavi』の卒業生への利用拡大を行った。今後、④卒業生就業実態アンケート調査を行う。

(2) 次年度以降

各指標の達成についての検証を評価委員会で行い、取組内容の具体的な見直し・改善を行いながら、目標達成を目指す。さらに、在学生にはキャリア形成を促す学士課程教育への拡充、卒業生には本学の再チャレンジプログラムと連携を行い、既卒無業者・不本意就業者ゼロ、第二就業達成という目標達成に向けて一層の努力をしていく。